

(令和3) 年度 学 童 ク ラ ブ 事 業 年 間 活 動 報 告 書

(京都市向島南) 児童館・学童保育所

	活動の基本目標 (指針)	主 な 取 組 名	成 果 と 課 題
生活援助機能	安全・衛生の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・館内生活ならびに施設使用のきまりとマナーの指導。遊具の安全な使い方指導など。 ・帰宅指導ならびに避難訓練と災害時緊急対応指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童館の施設や用具を安全に快適に利用するため諸注意、きまりやルールの定着、マナーについて、そのつどまた、毎日の終わりの会での指導を継続してきた。一つ一つ地道に指導を重ねることにより、履物や使ったものがきちんとそろようになる、整えてくれるなど、一定の成果があらわれてきている。これからも引き続き指導を継続していきたい。 ・集団帰宅にあたり、交通ならびに不審者に対応できるよう安全指導をしてきた。児童の意識は、高まってきている。マナーの面での一層の向上を目指し声掛けを図っていく。 ・避難訓練については、台風・地震・水難 (小学校建物への避難) を想定したものについて指導した。また職員の中で不審者対応を想定した実地訓練を行う。
	健康の管理・情緒の安定	<ul style="list-style-type: none"> ・手洗い、うがい等保健衛生習慣指導 ・トイレの使い方指導 ・感染症予防の指導 (検温・手洗い・消毒の励行) 	<ul style="list-style-type: none"> ・従来から帰館時とおやつ時間前の手洗い・うがいの習慣化について重点的な指導を行ってきた。しかし感染症の状況を鑑みて「うがいによる飛沫飛散回避」のため「うがい」は特に取り行わず、また手拭きもペーパータオルに切り替える。(ペーパー紙の大量消費に関しては今後検討しないといけない課題) また食中毒に対する知識等手洗い・消毒の意義を伝えながら行っている。トイレ指導は、すべての生活習慣形成に通じる重要な指導と位置づけ、継続してマナーの指導をしてきた。使用マナーが定着してきている。
	基本的生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ習慣指導 ・整理整頓後始末の習慣指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・「3つのあ」を大切にしよう児童に呼びかけ、「あいさつ」、「あんぜん」、「あとかたづけ」を児童の生活のめあてとして示し、その指導の徹底を図ってきた。上級生から下級生へと、次第に定着してきている。繰り返し、根気よく指導を続けること必要であると考える。
	社会生活技術の獲得	<ul style="list-style-type: none"> ・エコ・クリーンの日指導 ・「つくって食べよう」クッキング教室 ・「つくって遊ぼう」クラフト教室 ・当番制による整理整頓、点検の活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月1回、大掃除を実施。ぞうきんの使い方、箒の使い方等を指導しながら環境美化等の意識を高める指導をしている。 ・⇄(クッキング) 例年の取組だが、状況を鑑みて今年度では実施を控えるが、この状況で実施できる方策を検討する。 ・毎月1回、「つくって遊ぼう」の時間を設け、手作りおもちゃに挑戦させ指導をしてきた。 ・毎日帰りの会の前に班活動として外遊び道具や館内設備などの整理整頓と点検を行っている。
子ども育成機能	生活体験の拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜づくり・季節の花 ・ハロウィン用かぼちゃ作り ・夕涼み会 (宿泊行事から移行) ・やんちゃフェスタWEB参加 *伏見子どもまつり中止 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は ハロウィン用かぼちゃを当初から目指し、児童に種蒔き等活動を行わせて、クラフトできる大きさに育たなかった等があり、大きな取り組みにはならなかったが中学生0Bが大きいカボチャのクラフトを行ってくれ、カボチャライトができ雰囲気作りができた。 夕涼み会という形の2年目。保護者の企画参加の方向で検討するが、3密回避のため今年度も参加要請は控える。(親子の触れ合いとして外部企画予定するが雨天のため、会場の関係から密を避けるために、保護者は見学のような形になる。 ・他館との交流の良い機会であったが残念な結果になった。WEBに関しては、昨年の検討を土台に 保護者の承認を取りながらコンテンツ制作を行い、児童にとっても良い取り組みとなった。ただWEB企画決定の時期が遅かったこともあり取り組み時間が短かった。当面WEB形式が考えられるので早い段階から企画の視れくを上げていきたい。
	社会性の養成	<ul style="list-style-type: none"> ・遠足中止 お別れ会企画へ ・異年齢集団による遊びの指導 ・みんな遊びの指導 ・館内及び近隣児童館、京都大会等のより幅広い児童集団への関わり、参加の促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・館外活動の見合わせにより外部での取り組みは叶わなかったが観劇等を含めてお楽しみ会的に企画した。 ・「なかよく たのしく げんきに」を児童館生活の目標に、異年齢の児童が一堂に集う児童館の特性を生かし、縦割りグループによる遊びを推奨してきた。毎月1回全体で遊ぶ「みんな遊び」にも取り組んでいる。「あそび会議」も少しずつ定着してきており、上級生の指導力等も今後育成していきたい。引き続き一層遊びの多様化と活動の広がりをすすめ、遊びを通して、創意工夫したり、他を思いやる心や互いを尊重し合う気持ちを育てていきたいと考える。残念ながら 3密回避や大会の中止等で 交流活動は行えなかったが、将棋に関して オンライン大会の経験をきっかけに 近隣児童館とのオンライン将棋交流の実践を検討している。
	自立の促進と自主性の尊重	<ul style="list-style-type: none"> ・誕生会 ・けん玉検定 百人一首暗記検定等の検定 ・読書への興味関心を育てる。「読み聞かせ」「ブックトーク」 ・書き初め、百人一首の指導、伝承遊び 	<ul style="list-style-type: none"> ・誕生会や季節の行事を通して、児童に自分への振り返りや成長の確認をさせることにより、自立の意識や自主性を育てる取組を進めてきた。行事の意義を確認しながら取組、取組のマンネリ化を防ぐことが今後の課題である。「読み聞かせ」「ブックトーク」活動で読書への興味を持たせていく方向で取り組む。定期的な実施できなかったが、読書活動を通して、よりいっそう自立心や探究心を育てていくことが課題である。 ・こま回し、あやとり、囲碁・将棋など伝承遊びを紹介し、自ら進んで活動したり、より自分を高めようとする意識を育てるようにしてきた。子どもたちの持続力には、個人差を限界があるので、多様なものが提供できるようにしていくことが課題である。またこういった活動を高学年、中高生の活動に接続、拡大していく工夫も必要となっている。 ・3月学童クラブの年度末の区切りをむけ、1年間の思い出のアルバムづくりをした。修了式で記念に渡しており、毎年保護者から楽しみにしている旨の感想をいただく。今後子どもたちにも出来る範囲で制作にかかわらせていくことも課題と考える。 ・入部式、修了式を実施し、1年の区切り、成長の区切りと振り返りの機会を設けることができた。
子育て支援機能	子育てに必要な情報の提供と交換	<ul style="list-style-type: none"> ・児童館だより、児童館だより地域版、「つくしんぼ通信」(児童館だより乳幼児クラブ版)の発行 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月児童館だよりと児童館だより地域版「向島南児童館よりこんにちは」を発行し、児童館の取組を発信している。単に取組のお知らせにとどまらず、子育て支援や、子育てについての意識の向上ならびに連携につながるような内容となるよう一層の紙面の工夫が必要と考える。地域版については、地域住民に地域の子育てセンターとしての児童館の存在を意識してもらうとともに、地域連携を進めていく絆として配布方法や紙面の工夫が一層大切と考える。
	子育ての仲間づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・児童館思い出のアルバムづくり ・連絡帳の活用 ・保護者コミュニケーション ・HPや掲示板の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳は、児童館と家庭をつなぐ大切なツールと考え、全職員ができるだけ目を通すようにしてきた。また、保護者へのメッセージは十分慎重に対応し、形式的なものや事務連絡だけにしないようにしていくことが今後の課題と考える。 ・毎月のHPの更新や掲示板による行事・コロナ感染予防対応等の情報発信に活用している。一斉メールの体制も導入し、出欠確認も含めて運用を始めたが 保護者への浸透がまだ不十分ところがある。十全に活用できるように継続検討していく。
	子育てを支えるネットワーク形成	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者説明会、懇談会の開催 ・保護者会組織の構築 ・学校、関係機関との連携 ・地域連携の構築 ・子育て基幹ステーション活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者説明会、懇談会を開いた。会議の自粛も考えたが 保護者と話ができる数少ない児童館での子どもの様子を伝える機会と捉えスライドなど使って工夫をしながら短縮時間で行う。だが年度末会議日程が 同地域でCOVID-19の蔓延度合いが強かったので残念ながら中止とする。こういった場合の方法論も検討しながら保護者のニーズをしっかりと把握し、参加率向上にむけて、今後も一層の工夫をしていきたい。 ・問題行動の対応や生活指導については、学校と常に連携をとりあって進めてきた。児童虐待の未然防止にむけ、福祉事務所・子ども支援センターとも連携を深めている。コロナ感染予防の動きとあわせてより一層の学校との連携、地域との連携が重要となってくる。 ・子育て基幹ステーションとしての活動を実施した。コロナ感染予防機関については少数で確認程度にとどめることが多かった。 ・母親クラブの拡大と学童クラブの理解者を少しずつでも増やしていきたいようにする。